

2021年11月29日

各 位

会 社 名 ITbook ホールディングス株式会社
代 表 者 代表取締役社長 前 俊 守
(コード：1447、東証マザーズ)
問 合 せ 先 執行役員管理本部長兼 CFO 神谷 修司
(電話番号：03 - 6264 - 8200)

〈マザーズ〉投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

記

○ 開催状況

開 催 日 時 : 2021年11月29日(月) 15:00 ~ 16:00

開 催 の 方 法 : 対面による実開催

開 催 場 所 : 東京証券会館9階 第1、2会議室
(東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号)

説明会資料名 : 2022年3月期第2四半期 決算説明会
事業計画及び成長可能性に関する事項

【添付資料】

投資家説明会において使用した資料

※「事業計画及び成長可能性に関する事項」の資料に関しましては、別途適示開示させていただきます。

以上



東証マザーズ上場

証券コード: 1447



ITbookホールディングス株式会社

2022年3月期第2四半期 決算説明会

1. 会社概要
2. 2022年3月第2四半期 決算内容
3. Topics
4. 事業計画及び成長可能性に関する事項(別紙)

1. 会社概要

社名	ITbookホールディングス株式会社	
役員	代表取締役社長	前 俊守
	社外取締役	塚本 勲
	社外取締役	渡邊 美樹
	取締役	松場 清志
	取締役	石田 伸一
	常勤監査役	西山 靖
	社外監査役	三谷 総雄
	社外監査役	岡田 憲治
事業内容	ITコンサルティング、システム開発、システム機器販売、地盤調査改良、地盤保証等を営む傘下子会社及びグループ会社の支配及び管理並びにこれに付帯又は関連する業務	
資本金	1,315百万円(2021年9月末時点)	
設立	2018年10月1日	
上場市場	東京証券取引所マザーズ(1447)	
グループ会社数	連結子会社29社、子会社11社、関連子会社3社(2021年9月末現在)	
従業員数	連結2,188名(2021年9月末現在)	

2. 2022年3月期第2四半期 決算内容

✓ 売上高：前期比114.5%の結果。コロナ禍で前期落ち込んでいた地盤調査改良事業において、住宅着工戸数の回復等の要因により大幅増(地盤調査改良事業 前期比116.4%)

✓ 営業利益：地盤調査改良事業において前期比大幅増益(前期増減額:255百万円)

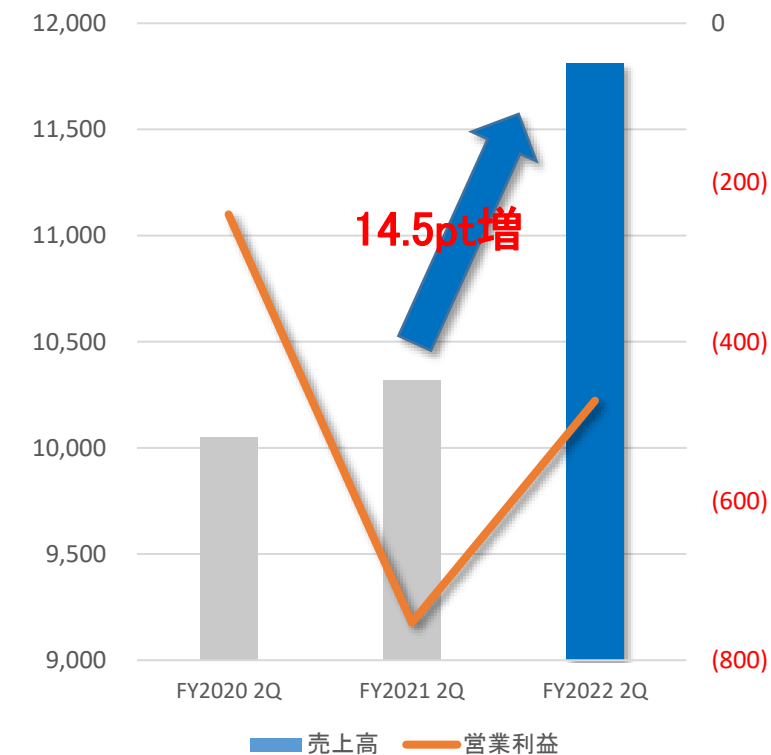
アパレル事業の株式譲渡により赤字幅は縮小(前期比較:168百万円縮小)

	FY2020 2Q	FY2021 2Q	FY2022 2Q	対前期	
	実績	実績	実績	増減額	%
売上高	10,050	10,319	11,812	1,493	114.5
売上総利益	2,435	2,478	2,891	413	116.7
販管費及び一般管理費	2,676	3,231	3,366	134	104.2
営業損失	△240	△753	△474	278	-
経常損失	△242	△719	△495	223	-
親会社に帰属する 四半期純損失	△361	△793	△563	230	-

(単位:百万円)

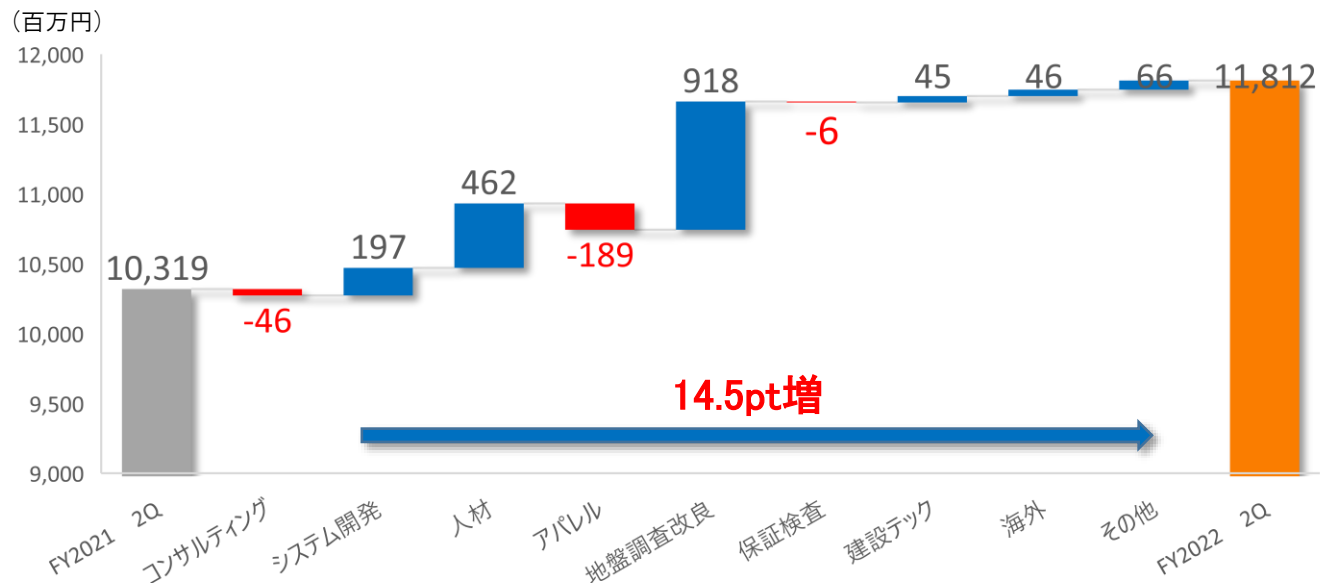
(百万円)

(百万円)



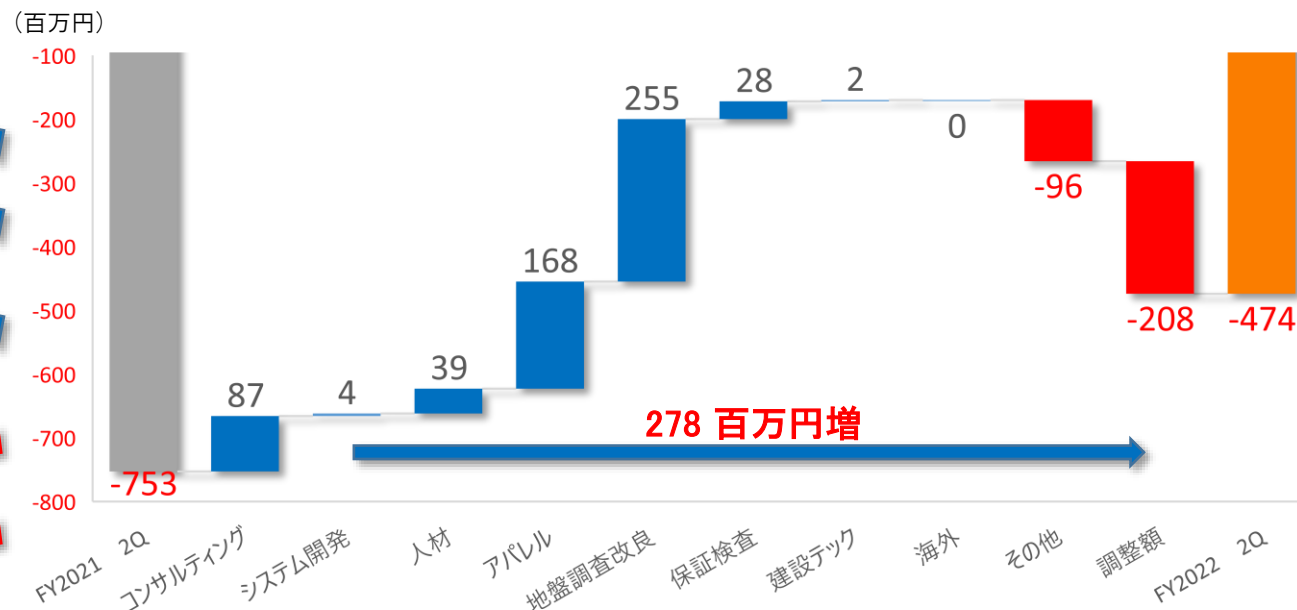
売上高

- ✓ 地盤調査改良、人材、システム開発が売上高増に寄与
- ✓ アパレル事業、2021年8月20日に株式譲渡により事業分離を実行
- ✓ コンサルティング事業、民間向けコンサルティングの3月計上案件の増加



営業損益

- ✓ 地盤調査改良の増収により増益
- ✓ 赤字のアパレル事業の事業分離により赤字幅縮小
- ✓ コンサルティング外注費等の見直しにより売上原価削減
- ✓ その他事業: ZOXモール開発費用増
- ✓ 調整額: サムシングHD、サムシングの統合により、業務委託費等の内部間取引消去が減少



✓前期の資金調達(ワラント債)による自己資本の増加、四半期純損失の減益および、有利子負債の減少(対前年同期)により、前年同期比でネットD/Eレシオ・自己資本比率が改善

(単位:百万円)

	FY2021 2Q	FY2021	FY2022 2Q	増減額 (対 FY2021)	主な要因
流動資産	9,856	10,852	9,832	△1,020	受取手形、売掛金及び契約資産△604 営業貸付金△500 仕掛品251
固定資産	4,517	4,413	4,953	539	有形固定資産164 無形固定資産86 投資その他資産288
繰延資産	43	19	30	10	
資産合計	14,417	15,286	14,816	△469	
流動負債	7,463	7,571	7,641	70	支払手形及び買掛金431、短期借入金△444 未払金△124 未払法人税等△110
固定負債	5,173	4,709	4,826	116	長期借入金242
負債合計	12,637	12,280	12,467	186	
純資産合計	1,780	3,005	2,348	△656	資本金22 資本準備金 22 親会社株主に帰属する四半期純損失△563
負債・純資産合計	14,417	15,286	14,816	△469	
有利子負債	8,476	8,211	8,218		
ネットD/Eレシオ	2.30	1.53	2.00		
自己資本	1,614	2,811	2,143		
自己資本比率	11.2	18.4	14.5		

✓ 売上債権の減少により営業CF前期比大幅増

(単位：百万円)

✓ 短期長期借入金返済・長期借入減少により財務CFマイナス

(単位：百万円)

	FY2021 2Q	FY2022 2Q	増減額
営業CF	16	1,145	1,129
投資CF	△604	△355	249
財務CF	2,109	△764	△2,874
現金同等物 期首残高	2,917	3,536	619
現金同等物 期末残高	4,437	3,576	△860

	FY2021 2Q	FY2022 2Q	増減額
●営業活動によるキャッシュ・フロー			
・税金等調整前四半期純損失 (△)	△718	△418	299
・のれん償却額	74	68	△5
・賞与引当金の増減額 (△は減少)	47	90	42
・投資有価証券売却損益 (△は益)	-	△364	△364
・売上債権の増減額 (△は増加)	812	1,433	620
・棚卸資産の増減額 (△は増加)	△211	△334	△122
・仕入債務の増減額 (△は減少)	190	456	265
・法人税等の支払額	△273	△185	88
●投資活動によるキャッシュ・フロー			
・定期預金の預入による支出	△88	△10	78
・有形固定資産の取得による支出	△244	△161	83
・無形固定資産の取得による支出	△154	△62	91
・貸付けによる支出	△145	△414	△269
・貸付金の回収による収入	2	461	458
・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△46	△46
●財務活動によるキャッシュ・フロー			
・短期借入れによる収入	1,150	3,775	2,625
・短期借入金の返済による支出	△819	△4,401	△3,581
・長期借入れによる収入	2,755	1,376	△1,378
・長期借入金の返済による支出	△869	△1,416	△547
・社債の償還による支出	△98	△53	45
・ファイナンス・リース債務の返済による支出	△111	△144	△33

3. 2022年3月期第2Q 決算内容

セグメント別



ITbookグループ

サムシンググループ



(単位:百万円)

・行政向けコンサルティング

- 自治体DX推進
- 自治体システム標準化
- ガバメントクラウドの移行

官民連携デジタル化ソリューション

・民間向けコンサルティング

- 「Smart Tool」レガシー分析サービスの販売促進

※民間向けコンサルティング・行政向け
コンサルティング共に3月度計上に集中

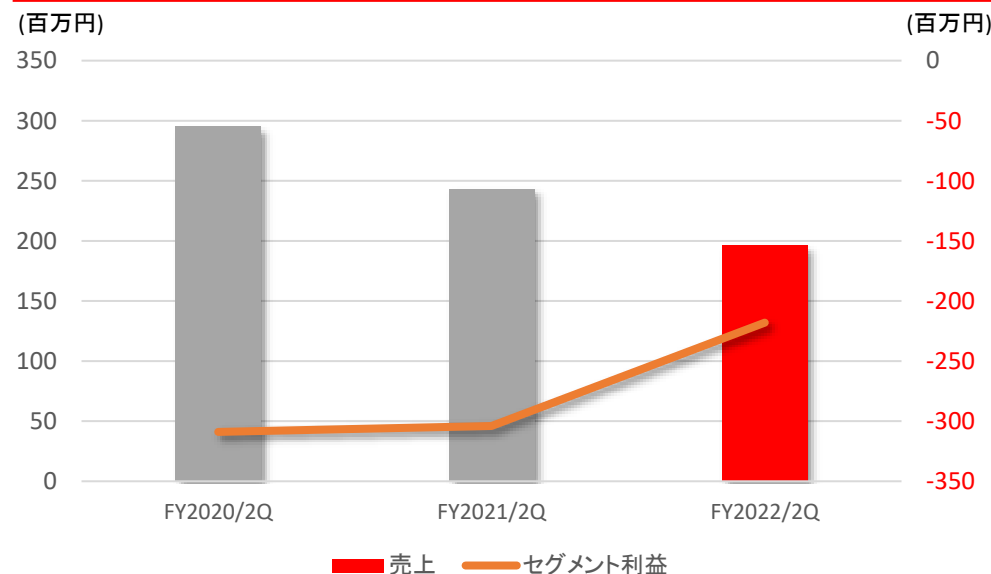
売上高 前期比 **80.9%**

今後の見通し

- ・既存顧客、既存案件のリテンション強化による、既存売上の維持
- ・政府のデジタル化推進により発生する案件、それらの対応が自治体に及ぶ政策案件の獲得
- ・Smart Toolを活用した、システム可視化サービス拡大(民間向けコンサルティング)

コンサルティング事業

	FY2020 2Q	FY2021 2Q	FY2022 2Q	前期比
売上高	295	243	196	80.9%
セグメント 損益	△309	△304	△218	



(単位: 百万円)

老朽化システム改築やデジタル化推進の動向

IT投資に取り組む企業も多い

IT販売、ソフトウェア開発、ITインフラ構築、ニアショア開発等の



東京アプリケーションシステム(株) **好調**

売上高 前期比 **119.2%**

5社統合の **ITbook** テクノロジー

- ・売上高拡大のための外注費等大幅増(売上原価増)
- ・事業拡大計画に伴う人材採用費等(販管費増)

売上高 **129.0%** となるも費用が先行し**営業損失拡大**

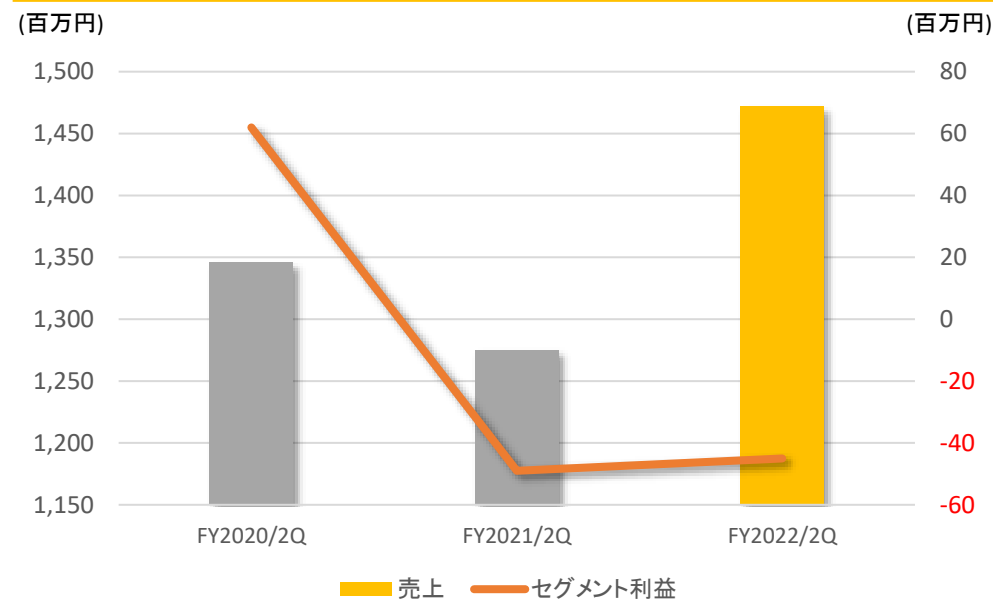
売上高 前期比 **115.5%**

今後の見通し

- ・エンジニアの採用を強化し、人員の確保・売上高増を目指しつつ、生産性効率を意識し利益面を確保する
- ・新規取引先開拓、既存取引先深耕
- ・IoTサービス(みまわり伝書鳩、温調みつばち、など)の海外展開を目指す
- ・ニアショア事業/ラボ、SES事業の拡大(人員の増強を計画)

システム開発事業

	FY2020 2Q	FY2021 2Q	FY2022 2Q	前期比
売上高	1,346	1,275	1,472	115.5%
セグメント 損益	62	△49	△45	-



(単位: 百万円)

・製造業、流通業向け人材派遣

売上高 前期比 **117.8%**



・技術者派遣

売上高 前期比 **112.5%**



・教育人材派遣

売上高 前期比 **152.7%**

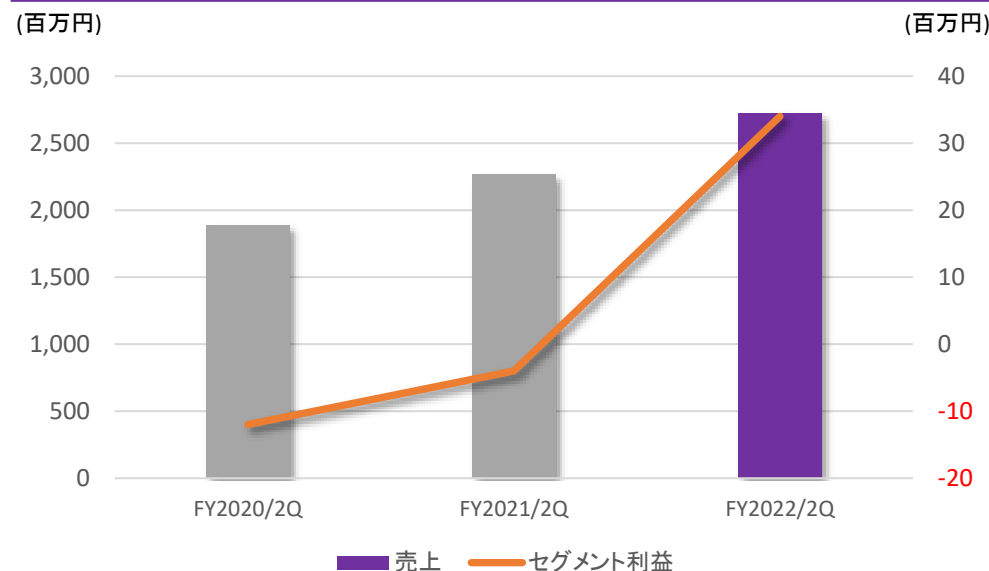


教育人材派遣、コロナ禍の影響が薄れ売上高、営業利益共に好調

売上高 前期比 **120.4%**

技術者派遣: 派遣人材獲得費用大幅増加
グローバル人材: 引き続き新型コロナの影響 **▶ セグメント利益に影響**

人材事業				
	FY2020 2Q	FY2021 2Q	FY2022 2Q	前期比
売上高	1,888	2,264	2,725	120.4%
セグメント 損益	△12	△4	34	-



今後の見通し

- ・製造業、流通業向け、教育人材派遣の強化継続
- ・管理体制の強化(派遣人員募集の専門部隊・データベース、システム導入による業務効率化等)
- ・新拠点の展開や拠点強化による事業規模の拡大(イスト: 福岡or愛知への出店、アイニード: 熊本強化、茨城への出店)
- ・配送、介護関連などの新分野へアプローチ

(単位: 百万円)

・高品質のSFP工法と

環境配慮型工法のエコジオ工法を拡販

➢ 柱状改良工法からSFP工法への切替え

売上高は前期比 **137.2%**

➡ **切替順調 工法定着化**

➢ エコジオ工法

売上高は前期比 **97.8%** **件数111.8%**

・大型工事へのシフト(コラムZ工法)

売上高は前期比 **105.3%**

住宅着工戸数の回復やSFP工法の拡販営業

✓ 売上高 前期比 **116.4%**

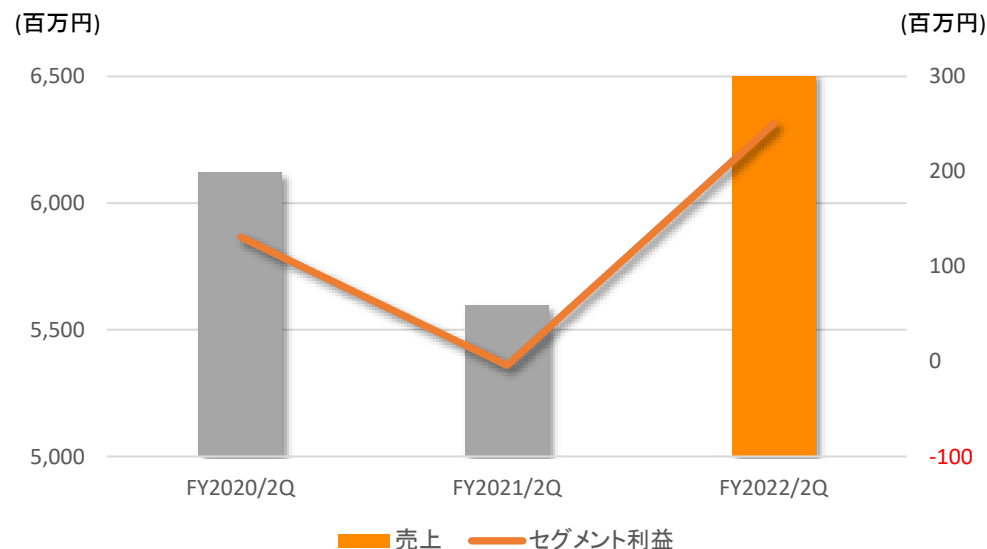
✓ セグメント損益 前期 **255百万円増**

今後の見通し

- ・ 従来の柱状改良工法による地盤改良工事を、高品質のSFP工法、エコジオ工法への切り替えを全国的に推進する
- ・ 大型案件(コラムZ工法による)施工実績の増加および、大型工事対応の設備投資を実施
- ・ 国内新規出店による更なる国内シェア拡大を目指す(南九州エリア・北信越エリア等)
- ・ アースプライム社とのシナジー効果の発揮
- ・ 不動産事業(GIR社): 社宅代行サービス、不動産仲介を強化(三愛ホーム株式取得による子会社化)

地盤調査改良事業

	FY2020 2Q	FY2021 2Q	FY2022 2Q	前期比
売上高	6,124	5,600	6,518	116.4%
セグメント 損益	131	△4	250	-



(単位:百万円)

・保証売上

- ✓安定受注の大型顧客の獲得
- ✓住宅着工戸数の回復

売上は前期比 **134.5%**

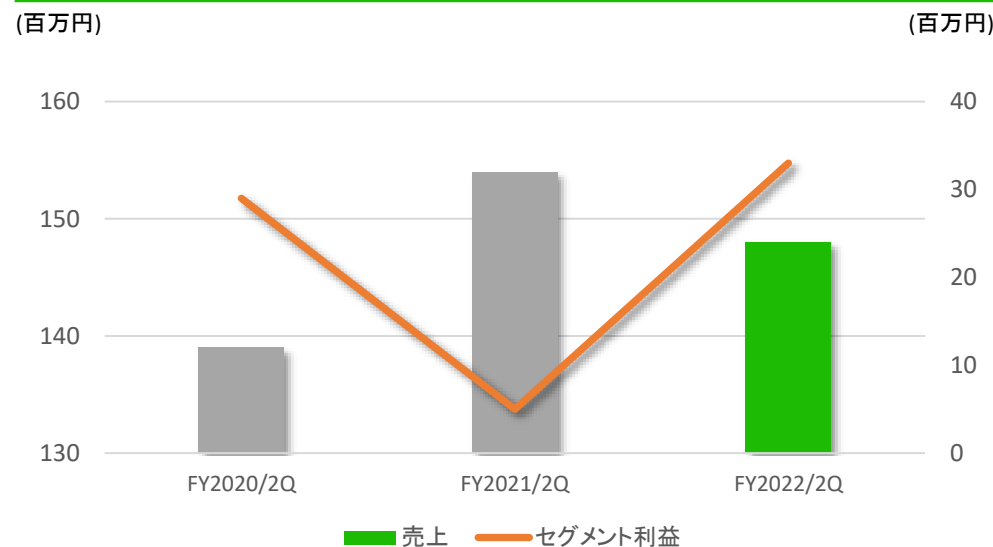
・検査売上

2021年3月期第2Qまでにリフォーム費・修繕工事費計上
→2022年3月期は第3Q～計上予定

売上は検査売上中心となり前期比 **49.1%**

売上高 前期比 **95.9%**

保証検査事業				
	FY2020 2Q	FY2021 2Q	FY2022 2Q	前期比
売上高	139	154	148	95.9%
セグメント 損益	29	5	33	592.4%



今後の見通し

- ・保証事業: ① 認定店の拡大・認定店サービスの技術力向上
② 不動沈下事故の低い技術力・品質を訴求する
③ 保証商品の開発を実施や新規顧客の獲得・既存顧客への深耕(営業強化)
- ・検査事業: リフォーム市場の拡大に伴うサービスの拡充

(単位:百万円)

・GeoWebシステム関連売上 (GeoWeb施工、調査等)

住宅着工戸数の前期比増加の影響等により堅調に増加

売上は前期比 **112.8%**

・ソフトウェア開発、システム保守売上

クライアントの基幹システムとGeoWebシステムの連携・カスタマイズ、保守等

新型コロナウイルス感染症の影響により、発案件の進捗に影響

売上は前期比 **95.1%**と減少

・商品販売

地盤調査機等の販売増加 **401.8%**

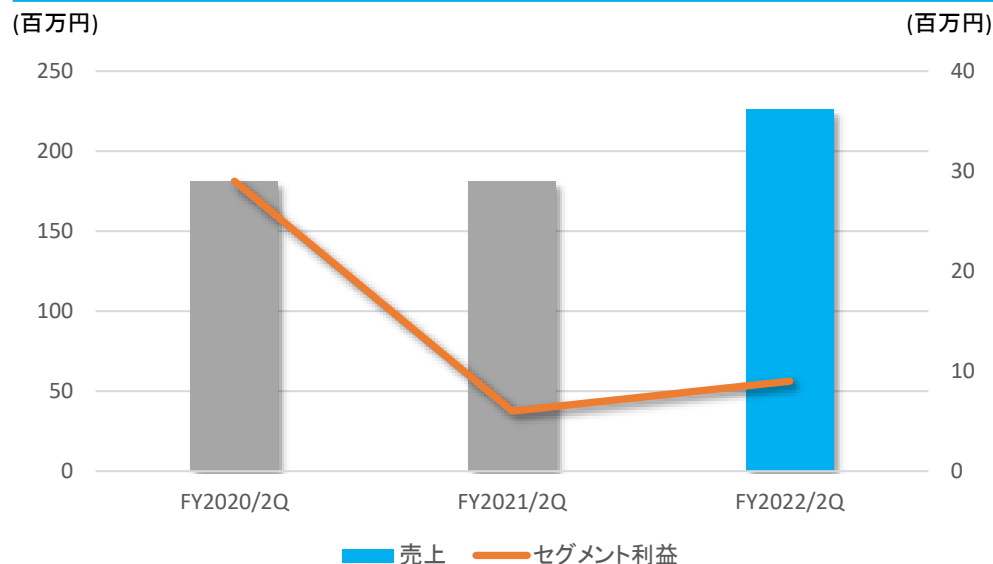
売上高 前期比 **124.9%**

今後の見通し

- ・GeoWebシステムの顧客システムとの連携やカスタマイズの受注拡大を目指す
- ・GeoWebシステムとIoTの融合による新商品の投入(測量業界等)
- ・ビッグデータの利活用による新サービスの開発

システム開発事業

	FY2020 2Q	FY2021 2Q	FY2022 2Q	前期比
売上高	181	181	226	124.9%
セグメント 損益	29	6	9	138.3%



(単位:百万円)

・地盤調査、地盤改良、工事案件

新型コロナウイルスによるロックダウンの影響はあるものの着実に営業を強化し受注へ

- ①河川・堤防・防災・道路工事
- ②ローカルのゼネコン、地方自治体からの安定的な受注を確保



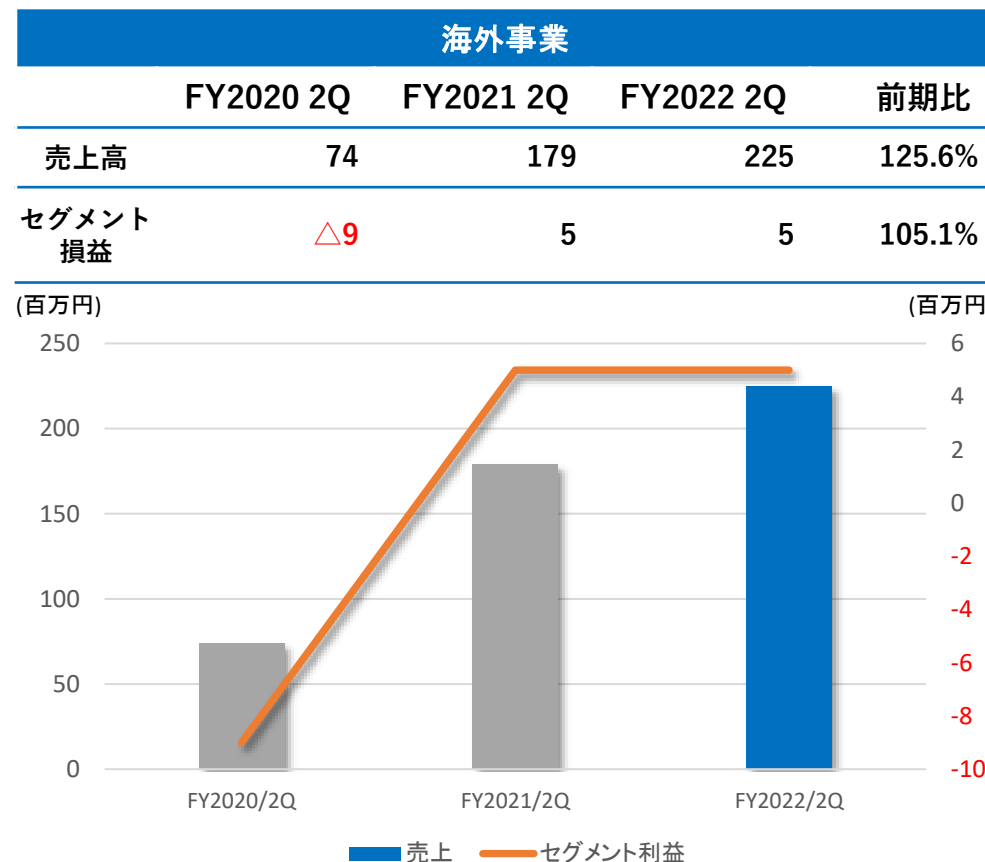
施工実績は伸長

売上高 前期比 **125.6%**

2期連続の黒字化を達成

今後の見通し

- ・ベトナムでの公共工事案件、エネルギー関連案件の実績を重ね、新規受注数増に繋げる
- ・現地支店の増設、協力会社や業務提携先を積極的に増やし、事業拡大、新規事業を展開する
- ・先端設備、工法、技術を導入し、多種多様な工事、特殊仕様への対応力を高める



4. Topics

ITbookホールディングスグループ サステナビリティ推進体制の構築

サステナビリティ委員会を設置(予定)

構成

委員長:代表取締役社長

委員:取締役

活動

サステナビリティに関する課題・取り組みの協議、取締役への報告
ステークホルダーとの対話

指示



より豊かな社会を目指して

報告

サステナビリティ推進委員会を設置(予定)

構成

委員長:代表取締役社長

委員 :グループ各社代表・管理本部長

活動

サステナビリティ基本方針の策定・整備、行動計画の立案と実施、情報開示
SGDsやCSR活動の推進と実行

✓グループ会社のノウハウ・リソースを活かすことで、様々な問題の総合的な解決を目指す

栃木信用金庫 × ITbookHDグループ 栃木県におけるDX・事業進出を本格化



DX

- ✓宇都宮市との包括連携協定
- ✓信用金庫へのフィンテック(DX)推進

保険事業

- ✓栃木信用金庫の保険事業を継承し事業本格スタート
会社名: 信栄保険サービス株式会社

地盤調査改良事業

- ✓栃木信用金庫の子会社の事務所の一部を利用し
栃木県への営業を強化

土木建築分野におけるデジタル技術活用 推進チームを発足



ワンストップソリューションで課題解決へ取り組む

- ✓デジタル技術活用方法の構想
・企画・計画策定、普及活動
- ✓課題解決策の具体化と実現に
に向けた実証や自治体の事業化支援

※2021年7月27日 プレスリリース

4. 事業計画及び成長可能性に関する事項(別紙)

ご清聴ありがとうございました。

IR担当窓口

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略は、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。従いまして、将来の事業戦略・業績見通しに関する情報に全面的に依拠して、投資判断を決定することは避けるようお願いいたします。

また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

ITbookホールディングス株式会社
管理本部
TEL: 03-6264-8200
Mail: ir@itbook-hd.co.jp

ICT技術・DXにより社会インフラの効率的、
効果的付加価値の向上及び、社会貢献を目指す。

